

を勝手に読まないといった最低限のマナーを守り、気持ちよく買物をしよう。

買物と言っても、サークル参加者と一般参加者は対等であってお店とお客の関係ではない。当然お客様は神様ではないので、お互いに節度を持ち、好きな作品を媒体とした交流を楽しむのが同人活動の基本だ。

企業や大手以外のサークルでは、用意している釣銭に限りがある。特に開会直後に一万円、五千円の高額紙幣を出されるとあっという間に底をついてしまうので、軍資金はコミケット当日までに崩しておくこと！



サークルにプレゼントや差入れをしたり、スケッチブックにイラストを頼んだりという交流も楽しいものだが、あくまでそれを受けるかどうかはサークル側に決定権がある。もし断られても気を悪くするようなことの無いように。

また、スケブを引き受けてもらえたなら、書き上がりの時刻まではスペースの前を離れていること、そして指定された時刻には責任を持って受け取りに行くこと。

何よりサークル（その同人誌、作品の作者）が喜ぶのは自分の作品に対する真摯な感想で、それを手紙などに書いたものが一番もらって嬉しいプレゼントなので、スペースの前に陣取って延々と感想を述べるよりも手紙に書こう。

差入れ、プレゼント類はケーキや果物、生花のような生ものは避ける。また、手作りのものも正直喜ばれない。食品類は好みの問題もあり、遠方から参加しているサークルでは持ち帰れない可能性もあるので、あくまで手紙に添える程度に小さめのものにしよう。また、手紙やプレゼントには贈り人の氏名と連絡先（フリーメールのアドレスでも）を記しておくこと。差出人の分からない物は安心して受け取りにくいのだ。



会場内や行列、コスプレイヤー、サークルのディスプレイや頒布物などを撮影する際には、当然ながら相手の許可を得なくてはならない。

無許可の撮影は『盗撮』扱いとされてトラブルの元になる。自分がしないだけでなく、もし見かけたら即座に注意して、それでもやめないようならスタッフに報告してほしい（誤解している方も多いが、エロティックな写真を撮影することだけが盗撮ではないのだ）。

友人同士で記念に携帯のカメラで1枚、という程度以上に、本格的に会場内や他の参加者が映る写真を撮影したいのであれば、準備会が発行している撮影者向けの小冊子『さいと』を入手してよく読むこと。

なお、参加者が遭遇して嬉しいと感じた事や眉をひそめた出来事はコミケカタログの『まんがレポート』内で「感謝感激」や、「聲壺」といったカテゴリにまとめられているので、是非事前に読んでおいて欲しい。

参加者が感じた、見聞したことが直接次回の参加者のための資料となるこのまんがレポートというシステムは、コミケットが参加者自身の手によって維持されている証明だ。せっかく購入したカタログ、隅々まで読んで最大限有効活用しよう。

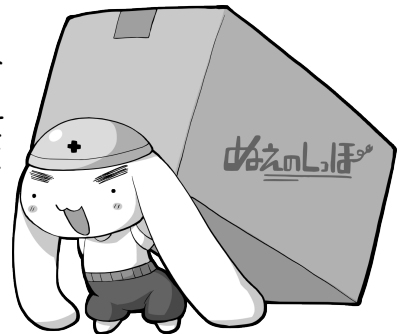
●基本は『おたがいさま』。

一般、サークルを問わず、参加者同士は助け合う。これはコミケットの素敵な習慣だ。困っている人や、重い本の箱を運ぶのに難儀している人、体調が優れない様子の人などを見かけたら、ほんのちょっとだけ勇気を出して声をかけ、手を貸してあげよう。

これはビギナーでもベテランでも関係ない。余裕があれば助ける、そして助けられる余裕をもっておくのが参加者側からのコミケットへの協力である。

コミケットで困った時に他の参加者に助けてもらう事は、決して恥ずかしい事ではない。恥ずかしがったり、変に遠慮してせっかく差し伸べられた手を断ったあげくに倒れてしまったり、より大きなトラブルに発展させてしまうなど、結果として多くの参加者やスタッフに迷惑や手間をかける方はるかに困った事なのだ。

困った時はお互い様、遠慮なく手を貸して、借りて、気持ちよく一日を過ごして、コミケットの良い思い出を持ち帰ろう。



を勝手に読まないといった最低限のマナーを守り、気持ちよく買物をしよう。

買物と言っても、サークル参加者と一般参加者は対等であってお店とお客の関係ではない。当然お客様は神様ではないので、お互いに節度を持ち、好きな作品を媒体とした交流を楽しむのが同人活動の基本だ。

企業や大手以外のサークルでは、用意している釣銭に限りがある。特に開会直後に一万円、五千円の高額紙幣を出されるとあっという間に底をついてしまうので、軍資金はコミケット当日までに崩しておくこと！



サークルにプレゼントや差入れをしたり、スケッチブックにイラストを頼んだりという交流も楽しいものだが、あくまでそれを受けるかどうかはサークル側に決定権がある。もし断られても気を悪くするようなことの無いように。

また、スケブを引き受けてもらえたなら、書き上がりの時刻まではスペースの前を離れていること、そして指定された時刻には責任を持って受け取りに行くこと。

何よりサークル（その同人誌、作品の作者）が喜ぶのは自分の作品に対する真摯な感想で、それを手紙などに書いたものが一番もらって嬉しいプレゼントなので、スペースの前に陣取って延々と感想を述べるよりも手紙に書こう。

差入れ、プレゼント類はケーキや果物、生花のような生ものは避ける。また、手作りのものも正直喜ばれない。食品類は好みの問題もあり、遠方から参加しているサークルでは持ち帰れない可能性もあるので、あくまで手紙に添える程度に小さめのものにしよう。また、手紙やプレゼントには贈り人の氏名と連絡先（フリーメールのアドレスでも）を記しておくこと。差出人の分からない物は安心して受け取りにくいのだ。



会場内や行列、コスプレイヤー、サークルのディスプレイや頒布物などを撮影する際には、当然ながら相手の許可を得なくてはならない。

無許可の撮影は『盗撮』扱いとされてトラブルの元になる。自分がしないだけでなく、もし見かけたら即座に注意して、それでもやめないうらスタッフに報せてほしい（誤解している方も多いが、エロティックな写真を撮影することだけが盗撮ではないのだ）。

友人同士で記念に携帯のカメラで1枚、という程度以上に、本格的に会場内や他の参加者が映る写真を撮影したいのであれば、準備会が発行している撮影者向けの小冊子『さいと』を入手してよく読むこと。



なお、参加者が遭遇して嬉しいと感じた事や眉をひそめた出来事はコミケカタログの『まんがレポート』内で感謝感激"や、"鬱蹙"といったカテゴリにまとめられているので、是非事前に読んでおいて欲しい。

参加者が感じた、見聞したことが直接次回の参加者のための資料となるこのまんがレポートというシステムは、コミケットが参加者自身の手によって維持されている証明だ。せっかく購入したカタログ、隅々まで読んで最大限有効活用しよう。

●基本は『おたがいさま』。

一般、サークルを問わず、参加者同士は助け合う。これはコミケットの素敵な習慣だ。困っている人や、重い本の箱を運ぶのに難儀している人、体調が優れない様子の人などを見かけたら、ほんのちょっとだけ勇気を出して声をかけ、手を貸してあげよう。

これはビギナーでもベテランでも関係ない。余裕があれば助ける、そして助けられる余裕をもっておくのが参加者側からのコミケットへの協力である。

コミケットで困った時に他の参加者に助けてもらう事は、決して恥ずかしい事ではない。恥ずかしがったり、変に遠慮してせっかく差し伸べられた手を断ったあげくに倒れてしまったり、より大きなトラブルに発展させてしまうなど、結果として多くの参加者やスタッフに迷惑や手間をかける方ははるかに困った事なのだ。

困った時はお互い様、遠慮なく手を貸して、借りて、気持ちよく一日を過ごして、コミケットの良い思い出を持ち帰ろう。

